

米農家の課題を解決し、未来に繋がりたい 知財取得が営業活動の幅を広げ、社内の意識改革にも影響

事業内容

2013年設立
スマート農業機器製造販売・付随サービスの提供

知的財産権と内容

特許第6555781号	水位管理システム
特許第7125768号	制御装置、送水装置及び制御システム
特許第7152097号	情報処理装置、情報処理方法、およびプログラム
商標第5816521号	笑農和（第6528848号も同様）
商標第6528849号	paditch

他 特許権1件

(2024年7月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



CIP0 (知的財産最高責任者) 土田 満さん

実家を助けるアイデアから 米農家全体を支えるシステムに

富山に本社を置き、東京にも支社を構える当社。現在は米作の「水管理」に関するスマート農業システムの製造・販売、それに伴うコンサルティングなどを総合的に行っている。元々は下村社長の実家である農家を少しでも助けたい、という想いから事務作業等を軽減する経営管理システムを考案したことに始まり、作業を楽にするために本当に必要なものは何か？を突き詰めた結果、特に労力が求められる水管理が機械化されていないことに気付いたという。

農業における人手不足や農家の高齢化が課題とされる昨今、下村社長は「米づくり自体が廃れないよう、業界全体に貢献したい」とIoTに取り組んでいる。知財の取得や活用にも積極的で、県内のスタートアップ企業として取り上げられることも多く、他社に刺激を与える存在となっている。

とやま起業未来塾での出会いが 様々な専門家との出会いに繋がった

知財について相談したきっかけは、下村社長が「とやま起業未来塾」に参加していた際、先輩のINPITの担当者と交流が生まれたことだった。「笑農和（えのわ）」という社名のオリジナリティを評価され、模倣されないように商標を取得した方がいい、と勧められたことから始まったという。「はじめは専門的な知識

が少なく分からない点も多かったが、担当者の丁寧な指導によりスムーズな取得に繋がった」と社内で知財の最高責任者を務める土田CIP0は話す。スタートアップ企業ならではの資金的な悩みもあったため、補助金の申請や支援策の情報収集の面でも助けられたという。また、INPITの重点支援企業に採択され、弁理士や中小企業診断士など専門家チームのサポートを無償で受けられたのも役立った。そこで得た適切なアドバイスを、現在も知財戦略の立案や知財取得に繋げている。

自社の強みを把握することで 幅広い営業活動へ

当社の開発商品として特許と商標を取得しているのが、スマート水田を実現するための水管理システム『paditch（パディッチ）』である。これまで手作業で行われてきた水門・バルブの開閉をスマートフォンから遠隔で操作できるほか、タイマーの設定や水位・水温の自動調整にも対応している画期的な製品だ。名前の由来は英語で水田を意味する“paddy（パディ）”に、新たな状態に切り替えるという“switch（スイッチ）”を掛け合わせた。あえて短く省略し、独自性や親しみやすさを演出している。国際特許も既に出願しており、タイやベトナムなど主に水稻栽培が盛んな国を対象に検討したという。「こうした知財の取得にも、IPランドスケープの取組効果が発揮されるようになった」と土田CIP0は語る。自社の強みを明確に知れば、

他社の強みとぶつかる部分や、反対に相乗効果を生み出す可能性も考えられる。ライセンス契約等、柔軟に選択肢を提案できるため、営業活動の幅が広がった。

知財取得における苦悩



前向きに知財を活用している当社だが、はじめは「知財の相談にあたり自社のアイデアを具体化する」という点で苦勞も少なくなかった。機械などは図面でイメージを共有しやすい一方、システムに関してはその構成やデータベースのイメージを他者に理解してもらうのが難しい。そのため、基本設計の部分から説明するなど、弁理士と細やかなコミュニケーションを心がけたという。また、特許分析を重視するあまり、調査に時間がかかりすぎて出願が遅れた経験も。特許は原則として先願主義であり、ある程度新規性を把握できたら「まずは出してみる」のが大切だと学んだことで、現在の知財取得の迅速な姿勢に繋がった。



農業における水管理を幅広く自動化可能な「paditch（パディッチ）」

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



土田CIP0は「どのような人材が確保できているかによって変わってくる」とした上で、「もし既に知財に関して頼れる専門人材がいる場合には、戦略や見分を社内に上手く浸透させ、スムーズな連携により知財活用を図るべきだ。反対に、まだ初期段階であればINPIT等、守秘義務がきちんとしている専門機関に相談した方がいい」と話す。

知財は会社にとって貴重な資産となり得るが、闇雲に取り組むと非常に時間がかかり、かえって計画から崩れてしまう恐れもある。まずは自社の現状や知財への展望について、専門機関のアドバイスを受けるのが得策だ。また「自分も知財担当者として、今後さらに活躍できるよう頑張っていきたい」とも重ねた。



専用のサポートセンターを設け、購入後のデータ監視やトラブル対応なども行っている

知的財産活用のポイント

新たな“道”を作った知財を、 今後も有効に活用するために

現在は県内でも知財を活用するスタートアップ企業として注目されている当社だが、土田CIP0が当社へ入社したのも、INPITが開催した研修で当社の事例が取り上げられ「知財への意識が高い企業がある」と知ったのがきっかけだった。現在では“知財

を出願すると褒賞金が出る”という新たな社内奨励制度も生まれ、社員のモチベーションアップにも繋がっているそうだ。また、土田CIP0は「今後は知財ミックスとして、様々な権利を組み合わせながら適切に取得し、守っていくことを考えたい」と話す。中には特許として開示せず、秘匿した方が有効に管理できる権利もある。次世代に繋げるために自社の知財をポートフォリオ化し、新たな運用を検討する方針だ。

COMPANY DATA

取材：2024年7月

企業名：株式会社笑農和 所在地：富山県滑川市上小泉1797-1 電話番号：076-482-3998
URL：<https://enowa.jp/> 創業：2013年 資本金：1億8014万円（資本準備金含む） 従業員：10名

